



<連載企画> 私たちのまちのメンタルヘルスケア活動 ⑨ 札幌圏における周産期メンタルヘルスの地域リエゾン

柏木智則（札幌医科大学神経精神医学講座／江別市立病院非常勤医師）

北海道はあまりに広大で、合併症妊娠に対応できる病院が各地に点在していますが、周産期のメンタルヘルス不調を真の意味で対応できる精神科医師は非常に限られています。今回は、私が所属している大学病院における精神科周産期外来と大学病院から診療派遣している地域総合病院への地域リエゾンについてお伝えしたいと思います。

まず、札幌医科大学附属病院神経精神科は200万都市に3か所ある産科・精神科有床病院のうちの1つです。身体的な合併症や様々は心理社会的背景を抱える妊婦が来院されます。

もともと、コンサルテーション・リエゾンでの対応でしたが、より専門性高く、事例に対応するために2021年に精神科外来に周産期専門外来を設置されました。症例は院内産科から紹介いただき、精神科外来で診察、必要があれば産科医師、助産師、地域保健師などを交えてカンファレンス・ケースワークを行います。「精神疾患を抱える妊婦さんに安心して出産してもらい、産後の生活を組み立てる」というコンセプトで産科と精神科の協働を行っています。

次に、地域リエゾンを行っている江別市立病院です。江別市は人口10万人程度で、札幌市のベッドタウンです。江別市立病院は精神科産科有床総合病院で、お産取り扱いが年間500件程度あります。2018年4月よりマタニティメンタル外来が設置され、開設当時、特徴的だったのは「産婦人科外来内に設置された」ことです。精神科に初診することは、誰しも抵抗があるため、産科外来内に「周産期発症のうつ病を中心とした妊産褥婦に受け入れられやすい外来」をコンセプトとして、設置されました。産婦人科外来は診察室内に診察台もあり、広く明るい環境で、診察補助者が助産師のため、受診される妊産褥婦の産科的な困り事もすぐに解決できる状況にあり、精神科医として、多くを助けられています。

2021年より、江別市から産後ケア事業の委託を受けて、院内の助産師が自宅訪問できる環境が整い、産後訪問からの受診や通院中の妊産褥婦の自宅での様子を確認するなど、マタニティメンタル外来と産後ケア事業のアウトリーチでシームレスな診療支援を行う体制ができています。公立の総合病院として、市内外の妊産褥婦に周産期メンタルヘルスを提供していければと思っています。



江別市立病院の産科外来の様子

いよいよ来月開催 第19回日本周産期メンタルヘルス学会

多職種で支える周産期リエゾンのバトン
～皆の“育つ”“生きる”を支える～



10月28日(土)29日(日)
東京都千代田区一橋講堂
大会長・竹内崇（東京医科歯科大学病院）

事前参加申込は9月30日(土)まで

(少しお安くなります！)

オンデマンドでも参加可能

(アドバンス助産師単位取得もOK！)

ケース相談窓口開設！

懇親会参加無料！

詳しくは学会ホームページへ →

<https://procomu.jp/pmh2023/>

お知らせ

当学会顧問の北村俊則先生が主催する北村メンタルヘルス学術振興財団が研究助成を公募しています。臨床に役立つ研究を志す「若手」研究者は奮ってご応募ください。締め切り12月25日。募集要項はこちら ↓

<https://www.kitamura-foundation.org/study.html>

2023年度
一般財団法人 北村メンタルヘルス学術振興財団

研究助成公募のご案内

助成金額：上限1件150万円（年間総額 500万円）

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。